

高松平和病院ニュース

〒760-8530 高松市栗林町1-4-1 TEL.087(833)8113(代表) HPアドレス：<http://www.t-heiwa.com/>
発行責任者：高松平和病院 院長 蓮井宏樹 編集：広報委員会 発行年月日：2016年7月21日

高松平和病院地域医療セミナーを 開催しました

7月2日(土)、当院主催の「地域医療セミナー」がルポール讃岐で開催されました。医師・看護師・ケアマネージャーなど34医療機関から108名の参加(当院スタッフ含む)があり、盛大に行われました。

これまでは「地域連携懇談会」として、当院の医師やスタッフが当院の医療を紹介する形式で開催してきましたが、今回は外部の2人の講師に講演をしていただきました。

吉澤潔先生からは、香川県や高松市の医療・在宅療養推進事業の取り組みをご紹介いただきました。なかでも在宅医療コーディネーター養成事業はまだ知らない方が多く、注目を集めました。

原田健先生からは、高知医療生協を中心とする高知市内の在宅支援診療所(訪問診療を行う開業医)の連携グループ『じきいくネット』をつくり、運営している経験をご紹介いただきました。月に1回の定例カンファレンスや週末当番制、インターネットを活用したお互いの情報共有など、見たことのない取り組みに新鮮な驚きでいっぱいでした。

今回のセミナーを通して、今後も地域医療における連携を強め、そのなかで高松平和病院・香川医療生協ができることを精一杯努力していきたいと思いました。
(内科 原田 真吾)



●「高松市における在宅医療介護連携の現状と展望」
久米川病院院長
高松市医師会在宅・病診連携・救急部長 吉澤 潔先生



●「在宅療養支援グループ じきいくネットの取り組み」
高知生協病院 在宅療養センター長 原田 健先生

高松平和病院理念

1. 患者の権利を守り常に信頼される医療を提供します。
2. 健康づくり、明るく安心して暮らせるまちづくりに貢献します。
3. 平和と医療、福祉を守ります。



整形外科

手術件数1万件達成しました



2016年4月19日の全身麻酔の手術3例目で通算手術数10,000件を達成しました。

1982年に整形外科初期研修を終えて高松平和病院に赴任しました。内科、外科、整形外科の研修6年を終えたばかりで、指導医がいるわけでもなく、まさに手探りの出発でした。たまたま

香川医大の開設と時期を同じくしていたのと、初代の教授が当院の手術室用イメージ透視器械を見に来られたのがきっかけで教室へ研究生として出入りさせていただくことになりました。難しい症例の相談に乗って頂いたり、諸先生方が直接当院へ来られて執刀指導をして下さいました。これが私の最高の研修になりました。

その後、当院で初期研修を終えて整形外科を選択していただいた先生が、外部研修を経て各分野の新しい手術術式や考え方を導入し定着させていきました。

開設後数年の手術症例数が少なかった時代は、麻酔医を確保するのも大変でした。手術指導ないしは助手をしてくださる先生の都合と麻酔医の都合を上手く摺り合わせて日程と時間を調整すると夜の8時に手術開始というのもしばしばでした。「僕の仕事は手配師だ」と看護師たちにぼやいたものです。そんな時代を経て、今では香川大学麻酔科教室から定期的に麻酔医を派遣して頂いていることに大変感謝しています。

高橋医師が初期研修ののち整形外科後期研修を開始しました。外部研修や短期の手術見学、実習を積み重ねて導入した新手術手技やシステムは、これまでの当院での方式を格段にレベルアップすることに繋がりました。

今後の課題は、①ひきつづき術式やシステムの改良に取り組むこと、②新しい手技や分野を導入すること、③4人目の整形外科医を養成すること、だと思っています。10,000件をとりあえずの通過点として、引き続き整形外科手術を積み重ねていきたいと思っています。 (整形外科 真鍋 等)



第17回日本死の臨床研究会 中国・四国支部大会

平成28年5月22日にサンポートホール高松第一小ホールにおいて、第17回日本死の臨床研究会中国・四国支部大会を開催しました。今回の大会テーマは「寄り添う、向き合う～聴くこと語ることを問う～」とし、午前は一般演題発表、午後は公開講座として京都大学大学院人間・環境学研究科研究員の佐藤泰子先生にご講演いただきました。中国・四国の各県の医療従事者や一般の方を含めて250名の皆様に参加していただきました。



午前の一般演題は14演題の発表があり、死の臨床の場における患者・家族のQOLを保つためにはどういった取り組みが必要か、またスピリチュアルペインや患者の苦しみをどのようにケアし自己決定を支えていくか、など幅広い内容で議論をすることができました。

午後の公開講座では、佐藤泰子先生のテンポの良いお話に参加した皆様が、笑い、感動し、涙し、心に残る講演になりました。講演では、苦しい事柄が動かないとき、私たちは気持ちや思いを他者に語り、語りの中で考えや思いを再構成し意味や認識を変更し、新しい意味を探しセルフコーピングをしている、という苦しみと緩和の構造を学ぶことができました。その学びから私たち医療従事者が、患者や家族の苦しみをやわらげ、なくする（＝援助する）ために求められることは何か考えてみました。私たち医療従事者は、患者や家族に援助しようとするとき、何か特別な手段をもって患者や家族の苦しみをやわらげようとするように思います。しかし苦しみと緩和の構造から考えると、他者が苦しみをやわらげようとしても、患者と家族の苦しみはやわらぎません。

私たちに求められているのは、患者が苦しみのサインを発したとき、そのサインを見逃さず、語りを促し、患者が思いや気持ちを整理し変わろうとするのを支えることではないでしょうか。「寄り添う」「向き合う」とは、私たち医療従事者が患者や家族に対して、あきらめずに見捨てないことではないか、とも感じました。

最後にはなりましたが大会準備から当日の運営を含め、本大会の実行員会ならびに香川緩和ケア研究会、中国四国支部の世話人の皆様方、そして参加して下さった皆様方には大盛況のもと大会が開催できたことに感謝申し上げます。本大会で学んでいただいたことが今後の皆様方の活動に生かしていただけるように願っております。

(緩和ケア科 中島 綾花)

家庭医の紹介

こんにちは、高松平和病院6年目医師の佐藤と申します。

私は昨年まで当院で初めての家庭医後期研修医として勉強してきました。「家庭医」ってあまり聞き慣れないですね。循環器科医なら心臓を診るし、呼吸器科医なら肺を診る。じゃあ家庭医は家庭を診る？よく分かりませんね。今回は家庭医がどんなものか簡単にお話します。家庭医は言わば、かかりつけの専門です。その地域に住んでいる人なら誰でも、どんな相談でも関係なく診ます。治せるときは治し、適切な時に専門医に紹介する交

通整理役でもあります。臓器別の専門ではないことを心配されるかもしれませんが、臓器別の専門に分かれていない分、かえって全体を眺めて調整するのが得意です。さらに、健康増進の視点があることが大きな違いだと思います。家庭医にとって患者に会うことは健康増進をするチャンスであり、個人だけでなく地域の健康問題を発掘し、改善できるように地域に働きかけます。「地域まるごと元気にできたらなあ」、なんてことをいつも考えています。

まとめると家庭医は「近くにいて」「何でも相談に乗って」「長く付き合う」「おせっかいな」医者です。「どの科にかかればいいのか分からない」「こんなことを医師に相談していいか分からない」「家庭医をみてみたい」…そんな時は家庭医のいる診察室にどうぞおいでください。（内科 佐藤 龍平）

まとめで



職場紹介

(事務長室)

事務長室は事務長1名、事務次長2名の計3名の職場です。4月より中津事務長をはじめ新たな体制でスタートしました。普段は病院7階で業務をしていますが、病院全般の管理運営に責任を持っています。病院運営に関わる委員会や会議への運営及び決定、法令・行政の手続き関係の管理、他団体との交渉など役割は多岐にわたっています。

何より組合員さんが「平和病院は親身に相談に乗ってくれる」「何かあった時には頼りになるわ」と感じて頂けるよう私たちも精一杯努めてまいります。

